



82

女性のがん検診事業について

平成21年第3回議会定例会において、勝山議員から「女性特有のがん検診推進事業について」一般質問がありました。勝山議員の一般質問に関連して、当町の乳がんおよび子宮頸がんの受診率、女性特有のがんに対する今後の対応につきましましては、女性の皆さまにとりまして極めて重要なことであると考えますので、女性に焦点を当てたがん検診事業の重要性を含めた答弁の内容についてお話ししたいと思います。

女性のがん検診を男性のそれと比べますと、マスコミの報道などでは女性のがん検診が取り上げられる場面が多いように見受けられますが、これには重要な背景があることを知らなければなりません。「性差医療」という言葉をご存知でしょうか。働き盛りの男性が心臓発作で倒れたり、痛風を患ったりすることは珍しくありませんが、女性ではあまり聞きません。かかりやすい病気も、男性と女性とは異なっています。このことは、健康管理や病気の治療にあたって、男性と女性の違いを考えて対処することが大事であることを示唆しています。男性と女性の「性差」を踏まえ、それぞれに異なった医療を施す考え方が「性差医療」に他なりません。

この性差に基づいて女性の健康管理や病気を考えた場合、女性にとつて各年代を通じて最大の脅威は「がん」であり、それだからこそ「女性のがん検診」は男性のそれと比べて健康管理の面でも切実な問題であることを理解する必要があります。

年度の静岡県の平均は25・2%、全国平均は20・2%であり、乳がんと並んで当町の子宮頸がんの受診率が高いことが分かります。

しかしながら、乳がんと子宮頸がんの受診率が他の市町と比較して高いからといって安心できるものではありません。先ほどお話ししたように、女性の最大の脅威はがんであると言っても過言ではない理由が、がんの発症が特定の年代ではなく各年代を通じて発症するところにあるからです。したがって、女性に対してがんの脅威を取り除く対策は、ひとえにがん検診を各年代を通じて定期的に行うこ

とに尽きますので、女性の皆さまの意識の啓発に力を注ぐしか他に術はないのです。

がんと感染症

この9月1日の読売新聞の朝刊に『子宮頸がんワクチン国内初承認 厚労省』という見出しがおりついていました。その記事は、厚生労働省の薬事・衛生審議会の部会が8月31日、子宮頸がんを予防するワクチン「サーバリックス」の承認を了承したこと、このワクチンはオーストラリアなど95カ国で既に承認されていること、10歳以上の女性が接種対象であること、このワクチンを感染前に接種すれば、子宮頸がんの原因の7割を占める2種類のHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が予防できると期待されていることなどを伝えていました。

お恥ずかしい話ですが、私の子宮頸がんはウイルスが原因となつて起こる感染症の1つであることを知ったのは、平成21年5月24日の読売新聞の朝刊に載った国立がんセンター名誉総長である垣添忠

町のみなさん、お元気ですか。



乳がんと子宮頸がんの受診率

当町のがん検診は、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんのそれぞれの検診を毎年行っています。平成19年度における胃がん、大腸がん、肺がんのそれぞれの受診率と県下市町における順位は、胃がんが21・0%で第25位、大腸がんが34・0%で第12位、肺がんが63・2%で第7位でした。

それでは、乳がんと子宮頸がんについてはどうでしょうか。まず、乳がんですが、平成18年

度は30・4%、平成19年度は33・9%となっています。ちなみに、平成19年度の33・9%は県内市町で4番目に高い受診率になっています。平成19年度の静岡県の平均は16・2%、全国平均は14・3%であり、当町の受診率は極めて高いものであることが分かります。

次いで、子宮頸がんですが、平成18年度は31・9%、平成19年度は34・7%と受診率は向上しており、平成19年度の34・7%は県内市町で11番目に高い受診率となっています。平成19

生氏の「地球を読む」シリーズの『感染症対策』によってでした。

その感染症対策の記事の報じるところに沿いながら、がんと感染症についてお話しします。感染症ががんの原因の5%から10%を占め、子宮頸がんに関して言えば、HPV16型と18型が原因となるウイルスとして特定されています。先ほども、日本でも子宮頸がんを予防するワクチンが承認されたことをお話ししましたが、そのワクチンがHPV16型と18型のウイルスからの感染を予防するというわけです。

この子宮頸がんに対するワクチンの接種について、2種類の問題が指摘されています。1つは、性交渉が未経験である10代前半の女性に接種することによってウイルス感染を予防する必要があること。もう一つは、3回接種する必要がある、費用が約4万円かかることです。

国内では毎年約7,000人が子宮頸がんにかかり、約2,500人が亡くなっています。最近の傾向として、20歳から30歳代の若い世代での子宮頸がんが増えており、

今後の子宮頸がん対策ではワクチンの導入と従来の検診との適切な組み合わせを考える必要があると思います。

勝山議員は子宮頸がんワクチンの導入についても質問があり、私は導入について前向きに10歳から12歳の3回接種が適切と考えている旨お答えしました。しかしながら、財政的には榛原総合病院の費用負担や中山三星建材(株)工場跡地購入の借金払いに目処がたつこと、また、新しい試みであるので町民の皆さまの理解を得ることの二つをクリアすることが大事であると思ひました。

この子宮頸がん以外にウイルスが原因となるがんとしては胃がんが知られています。胃がんは年間11万人が罹患し、約5万人が亡くなっています。胃がんを引き起こすとされているピロリ菌の除去には1週間の内服治療を要し、2万円から4万円の費用がかかります。子宮頸がんと併せ今後考えてまいりたいと思います。

